

第3回 東大和市公園等再整備方針・再整備計画策定検討会

会議要録

- 1 日 時** 令和7年10月30日（木）10時00分～12時00分
- 2 場 所** 東大和市役所会議棟第6会議室
- 3 出席委員** 佐藤 伸朗（座長）、町田 誠（副座長）、松浦 光明、亀山 明子、山本 尚幸、五十嵐 弘充、木内 健司、秋山 治雄
- 4 事務局** 金子まちづくり部長、鈴木公園緑地担当課長、鈴木計画係長
斎藤主事、末吉主事
- 5 次第**
- 1 座長挨拶
 - 2 議事
 - (1) 本日の検討会でご意見いただきたい事項
 - (2) 第2回検討会の振り返り及びその後の対応状況について
 - ①市立狭山緑地における公民連携事業の進捗状況
 - ②パークマルシェ（社会実験）の報告
 - (3) 「東大和市公園等再整備・管理運営方針（案）～パーク・グラデーションの実現に向けて～」（仮称）について
 - (4) 今後のスケジュールについて

6 議事要旨

(1) 本日の検討会でご意見いただきたい事項（事務局から資料説明）

(2) 第2回検討会の振返り及びその後の対応状況について

①市立狭山緑地における公民連携事業の進捗状況

②パークマルシェ（社会実験）の報告

(質疑応答)

○副座長

パークマルシェ（社会実験）のように公園で実施するイベントに対しては、基本的に市民からの評価は高い。しかし、このような活動は実施するだけでなく、その収支を確認することが重要である。今後こういったイベントを含めて民間事業者による運営を想定するのであれば、事業として持続可能かどうかを見極める必要があるのではないか。

民間事業者側はイベント等の実施時には背伸びした計画を示すことがあり、魅力的に見えることが多いが、実態と現実的な収支を見極め、継続性を確認することも重要である。

○事務局

上仲原公園及び市立狭山緑地で実施したパークマルシェでは、すべてのキッチンカーで収支が黒字だったと聞いている。一方で、イベント全体としては安全管理や車両誘導にかかる人件費等のコスト面で課題があると考えている。一定の財源の中で行政がどこまで負担をするのか、今後考えていく必要がある。

○委員

今回は市立狭山緑地で初めてのイベントであり、来園者が多かった要因の1つとして推測されるため、今後、回数を重ねると慣れなどにより、来園者が少なくなることも予想される。行政側の人員確保や保健所対応なども課題であると考えており、継続的にイベントを実施できる仕組みづくりを考えてほしい。また、遠方・市外からも来てもらえるような工夫をお願いしたい。例えば、市立狭山緑地で開催するのであれば、シャトルバスを用意するなどの取組ができるとよい。

○事務局

今回のパークマルシェは、市内の比較的大きな公園における集客のポテンシャルを検証することが第一の目的であった。結果としては、上仲原公園と市立狭山緑地の両公園共に、集客のポテンシャルがあることを確認することができた。市立狭山緑地では、自然環境に関するソフト活動の展開や、郷土博物館や都立公園等の周辺施設のイベントとタイアップするなどの連携も有効と考えている。また、今後は公園の特性に合わせて、イベント内容等にバリエーションを持たせることが継続のポイントになると考えている。今後の実施方法については工夫しながら進めていきたい。

○委員

パークマルシェのようなイベント自体は高齢者にとっても参加しやすく有意義な活動であるが、遠方の高齢者は上仲原公園まで徒歩で行けない人が多いため、他の公園でも実施してほしい。また、高齢者の多い団地では、イベントの開催自体が十分周知されていない。自治会が十分に機能していない地域もあり、回覧板や掲示板のみによる周知では情報が行き渡らず、参加の機会が失われてしまう。

○事務局

市立狭山緑地で実施したパークマルシェについては、上仲原公園での実施とは異なり、スペースの関係から近隣住民や子育て世代を中心にチラシを配布した。イベント開催等における周知の仕方については工夫の余地があると考えているため、今後も効果的な方法を模索していきたい。

○委員

来園者が自然と触れ合うという意味で「自然との融合」を考えると、市立狭山緑地にフィールドアスレチックがあることが最適であるか疑問である。民間事業者の考え方もあるが、どのように狭山緑地を活用していくかを踏まえた上で検討する必要がある。

○事務局

市立狭山緑地は東側と西側で性質が異なる。東側は、自然の中で遊べるアスレチックがあり、西側は自然豊かで、歩いているだけでも人それぞれが魅力を感じられる場所となっている。イベントなどで回遊性を高める工夫をすることで、来訪者自身が新たな魅力を発見し、おっしゃるような「自然との融合」を目指すこともできる。

また、都立公園とも近いので、市立狭山緑地との連携を模索したいと考えている。

(3) 「東大和市公園等再整備・管理運営方針（案）

～パーク・グラデーションの実現に向けて～」（仮称）について

○委員

市内に118か所ある公園等をすべて現状のまま維持していくのか、または、統廃合の可能性も含めて検討していくのかわかるようにしてほしい。また、緑のネットワークの図が、ネットワークの全区間を整備するようにも読めるため、優先的に整備する箇所や特色付けの考え方方がわかるようにできると良い。

○事務局

公園等の統廃合も選択肢の一つとして想定しているが、公園等の機能の重複状況等を踏まえ、個別に判断をしていくことになる。個々の公園等の機能や公園テーマは現在整理をしているところであり、次回以降の検討会において提示していきたい。

令和8年度には、整理した公園等の機能や公園テーマなどの内容について、広く市民から意見聴取を実施する予定である。

また、緑のネットワークの街路樹の部分については、担当部署において、今年度、街路樹等更新計画を策定中であり、路線ごとに街路樹の更新のあり方を検討している。維持管理に課題のある路線は樹木の間隔を広くするなど植栽環境を改善する路線としていくことや景観を重視してきめ細やかな管理をしていく路線としていくなど、一定のメリハリを付けた管理・更新を検討しているところである。本方針・計画とともに連動させて進めていきたいと考えている。

○副座長

本方針（案）の本文中で「見直し」という言葉が複数箇所に用いられているが、何をどの方向に見直すのかが読み取りにくい。今後パブリックコメントを実施するのであれば、可能な範囲でわかりやすい表現にしてほしい。

○事務局

「見直し」の文言の前後に何をどのように見直しを図るのか、わかりやすく記載するなど、改善していきたい。

○副座長

本方針（案）の記述で、「公園等の数が少ない」、「もっと魅力的な公園が欲しい」などの表現は、今後新たに公園等を整備して公園等数を増やすことを示唆しているようにも読める。新たに公園等を整備する趣旨ではないのであれば、表現を変更することが望ましいのでは。

○事務局

「公園等の数が少ない」エリアについては、市域を広域的な3つのエリアに区分し、そのエリアの中で機能分担を図ることを想定しており、現時点で市として新たに土地を取得して、公園等の整備をする計画はない。

この点については、表現や説明方法を工夫し、誤解を生まないよう修正したい。

○委員

本方針（案）の文章だけでは、公園タイプとして示されている「わくわく公園」と「まいにち公園」の違いがわかりにくい。利用頻度や導入する機能といった具体的な違いを整理して示してほしい。また、例示されている公園テーマが施設整備などハード面を重視しているように見えるため、日常的なソフト面の活動も踏まえたテーマ設定とできると良い。例えば、ラジオ体操のような活動を公園テーマ名に含めることも検討してほしい。

○事務局

具体的な公園タイプを想定した機能分担を考えており、表現しやすい施設整備など、ハード面が前面に出た表現になっている。ご指摘にもあったように、もう少し「使ってみたい」、「参加してみたい」と感じられるような表現になるよう可能な範囲での修正を検討していきたい。

○副座長

本方針（案）は、公園等に限った機能分担の考え方に対する印象がある。

他の公共施設とうまく連携することによって、機能分担の合理化や再整備費用等の節減につながり、結果的に公園側の魅力も高められる。例えば、本方針（案）の「共創による公園等の管理運営」の中に、公園等に絞った話だけでなく、郷土博物館や保育園などの他の公共施設との連携を視野に入れた具体的な考え方を含められるとよい。また、団地内のプレイロットのような小さな空地でも、実際には住民が手入れして使っている例もあるので、そうした公共施設以外のスペースも含めて俯瞰できるとより実態に近づくのではないか。

○事務局

公園等とその周辺の公共施設との連携には、多くの検討の余地があるものと考えている。

例えば、市民センターに隣接する公園等であれば、具体的な活用イメージを示すことで、市との他部署や近隣団体とも連携しやすくなる。また、今後は各公園のテーマ案等を提示していく予定であることから、引き続き、検討会の委員の皆様や市民の皆様から意見を聴取する機会を設けたいと考えている。

○副座長

今回、サブタイトルについては、数案の中から検討されているが、案として採用された「パーク・グラデーション」という横文字は、市民にとって直感的にはわかりにくいのでは。「何をグラデーションさせるのか」「何が変わるのであるのか」が伝わりにくい。用語の説明をサブタイトルや冒頭のリード文として入れるなどの工夫ができると良いのではないか。

○事務局

「グラデーション」という言葉については、むしろ「何だろう」と感じてもらえることで、逆に興味をもってもらいたいと考え、案として採用したところである。今後、策定する計画の中で何かしら補足できるよう工夫したい。

「東大和市公園等再整備・管理運営方針（案）」は、令和8年度に策定を予定している同計画を見据えてまとめたものであり、同計画を策定するに当たっての市の現時点における考え方を示すものである。今回の検討会でいただいた指摘を踏まえて一部修正を行い、パブリックコメントを行う予定である。今後、パブリックコメントで寄せられた意見も参考にしながら、最終的な「東大和市公園等再整備・管理運営方針」を策定する予定である。

以上